

「風」カトリック住吉教会 2009年6月度月報



発行責任者 赤波江 豊神父
シリロ・オラデレ神父
編集 評議会・広報チーム

どくだみの花

赤波江 豊神父

最近のように初夏を思わせるような暖かい日が続くと、庭の花や草も勢いよく伸びて手入れも大変です。ところで、この時季時々目につく草で、あの独特のにおいの故に人によっては悪魔のごとく嫌われるものにどくだみがあります。私もかつては何で世の中にこんなものがあるのだろうかと思うくらい嫌いでしたが、ある事をきっかけにして愛着をもつようになりました。

神学生の時、ちょうど今頃の時季でしたが、一時体調の悪い時がありました。原因はよくわかりませんが体が非常にだるくて気の重い毎日を送っていました。ある日のこと神学院で働いておられるシスターが庭でせせとどくだみを刈っているのを目にしました。どくだみなんかどうするのですかと問えば、お茶にして飲むとの返事。しかもとても体にいいらしい。その時は何でこんなものかと思いましたが、後になって何となく気になり、私も恐る恐るあのにおいを気にしながらどくだみを摘んで乾燥させ、お茶にして飲んでみました。あの悪臭も乾燥させてしまえば消えるし、お茶の味も悪くはない。そう思いながら三日ほど服用したある日の朝、いつになく体が軽いのに気がつきました。瞬間的にどくだみが効いたとわかりました。その時から私の「どくだみ狂時代」が始まったのです。

毎日ひまさえあればどくだみを刈って乾かしてはお茶にして飲む日が続きました。おかげで私もすっかり健康を取り戻しました。

しかしながら私のどくだみ狂いは他の神学生にとってはいささか迷惑だったようで、私が生のどくだみをかかえてウロウロしているとよく「くさいぞ」と怒鳴られました。最初はどくだみを自分の部屋につるして乾かしていましたが、いっぱいになると今度は神学院の廊下や軒の下につるしてまわる有様。今にして思えば随分異様な光景だったと思います。何もそんなに山ほど採る必要もなかったのですが、その時は何か宝物でも見つけたような気になったのでしょうか。この喜びを自分だけ取っておくのは良くないと思い、今度はどくだみ茶の効能を宣教してまわる始末。しまいには「お前はどくだみ教の教祖にでもなるつもりか」と言われました。どくだみ茶は体の毒素を流すのだと言えば、「それじゃ、お前が飲んだら消えてなくなるんじゃないか」と言い返されました。どういう意味でしょうか？とにかく、どくだみを愛する人は迫害されるのです??

どくだみはよく日陰の湿気のある所に群生します」その姿がまるで人に嫌われながら身を寄せあって生きているようでいじらしい(いささかセンチメンタル)。

ところでどくだみは可憐な純白の花をつけます、あまり飾り気はありませんが、その美しさはふと目をひくものがあります。くさいくさいと嫌われながらも何か美しい魂をもっているかのようです

花が咲いたら一輪父の遺影の前にさしてみよう。

現在、カトリック教会は司祭、修道者、信徒が一緒になってより良い共同体を築いていくために、「信徒奉仕職」がとても大切になってきています。信徒の皆様が一人ひとりが自分のできる範囲の働きにおいて、よい共同体作りに参加することが求められています。小教区共同体が日頃どんな活動をしているのか、信徒の皆様によくご理解頂き、これからこの目的に向ってご協力を頂きたいと思えます。

今月号から、住吉教会評議会各チームの日頃の活動内容と活動状況をご紹介します。まず最初は司牧チームです。司牧チームは会員の募集もしています。ぜひご参加下さい。

司牧の案内

司牧チーム長

現在、住吉教会の司牧として3つの仕事があります。

レジオ・マリエ

家庭集会

祈念堂の管理

1. レジオ・マリエについて

レジオはその仕事として、ミサの準備、病院、介護施設を神父様と共に、又会員で訪問。聖歌隊と共に毎月典礼例会への参加、大祝日、洗礼などの準備、霊名のお祝い、ご復活、クリスマスの案内状の送付などの活動をしています。

レジオは司牧の一部ですが、レジオが司牧ではありません。今は高齢の方も多く、昔のようにレジオが何でもできる状態ではありません。また信徒の奉仕職と言われる現在一人でも多くの信徒が教会活動に参加することが大切だからです。

ここでレジオの仕事である病院、介護施設訪問に関連して考えて頂きたいと思えます。病院や施設などに入っておられる方は訪問の機会が有るのですが、家庭で療養しておられる方への訪問がご家族の意志によって制限されることです。ご本人が信者で家族が信者でない場合などご家族に断られるとどうにもなりません。それと今の都会の佛教の方などの場合、死亡されてから自分の所の宗旨とかお寺について調べたり葬式を依頼したりします。

カトリックの家庭でも同じようなことが起っていないでしょうか。教会では病者の塗油という秘跡があります。そして家庭で療養しておられる信者の方がもっと聖体に近づくことができるように神父様やレジオを利用すべきです。レジオは秘密は守ります。

マザー・テレサがインドの町で死に行く人の宗教を大切にして死を見取ったように、我々カトリック信者は聖体と結びつきながら、病者の秘跡に強められながら、旅路の糧を頂いてキリストの許へ旅立って行くのです。亡くなられてからでは遅いのです。

レジオ・マリエでは今、会員を募集しています、ぜひ皆様の参加をお待ちしています。毎週火曜日 10時30分より集会をしています。

2. 家庭集会

家庭集会はかつて1985年頃、松本武三神父様の時に家庭集会を行ったことが有りました。それが消滅したのは家庭集会へ多くの人を集めることを考えるあまり、教会で開催することへ傾いたためその意味を見失ったからです。教会で開いたのでは家庭集会とは言えません。ですから4人、5人でも家庭で集まって共に祈ることが大切なのです。今、住吉教会は神父様が居住されています。また近隣に教会が色々ありどこへでも行けます。これが和歌山や姫路の地方などの場合、ミサもままならない地方があります。その様な時教会を支えるのは小さい家庭の集会なのです、それは都会の教会でも同じことです。キリシタン時代迫害に耐えて信仰を守ってきたのはそのような小さな集会だったのです。家庭集会を大切にしたいものです。

3. 祈念堂の管理

祈念堂管理は目立たない裏方の仕事ですが、人が最終的にどうしてもお世話にならねばならない大切な役目です。教会が新しくなって納骨できるまでの教区納骨堂への仮移転そして引取り再納骨など人に解らない所で苦勞もありました。希望があればいつでもお受けします。

11月死者の月には毎年祈念祭を行い案内をしています。

毎月初金曜日のミサには神父様が祈念堂に眠る方のために祈ってくださっています。

6 月度

1、 インフルエンザ感染予防対策について

5 月 21 日に第 3 回目の教区通達がきています。今後は主日のミサは通常通り行われます。しかし今暫くは 5 月 1 日通達を守るようにとの事です。内容は
聖水使用を控える

平和の挨拶時、握手抱擁を控える 口での聖体拝領を控えるという三点です。新型インフルエンザも大分峠を越したかに見えますが、今しばらく皆様ご協力をお願いします。

2、 6 月 7 日の神戸地区大会は予定通り実施されることになりました。

当日は住吉教会で 9：30 にミサはあります。

篠山の神戸地区大会への参加者が現在まだあまり多くありません。インフルエンザのこともあります。出席できる方は可能なかぎりご参加ご協力願います。

住吉教会から 9：00 にバスが出ます。無料です。ご参加下さい。申込は直前迄可能。

バスで参加される方は現地でのミサに与ることになります。

3、 5 月度は 17 日の主日ミサが中止になったため、評議会は開催されませんでした。

4、 各チームからの連絡。